

1 新熊本学：地域社会と協働

講師：澤田 道夫

【日 時】 令和元年10月1日～・毎週火曜日
3時限目（12：50～14：20）

【募集人員】 20名 【受講料】 5,000円

【講義内容】 一般教養

地域社会は地方自治体（都道府県、市町村）やNPOなど、様々な主体によって支えられています。地域における公共は、これらの主体の協働によって運営されています。私達が何気なくおこなっている日常生活がどのようなシステムによって支えられているかを理解してもらうことが目標です。

この授業は、行政組織やNPOなど様々な分野で活躍している方を招聘して行います。

【授業計画】

主として熊本県内の行政組織やNPOの活動を取り上げます。

【選考方法】 抽選により決定

2 新熊本学：ことば、表現、歴史

講師：小川、難波、馬場、原、野々宮

【日 時】 令和元年10月2日～・毎週水曜日
3時限目（12：50～14：20）

【募集人員】 若干名 【受講料】 5,000円

【講義内容】 一般教養

肥後・熊本に関係の深い人物や文化事象のうちから幾つかのテーマを選び出し、講じていきます。地域でなされた、あるいは地域に深くかかわる文化的営みが、日本や世界の歴史・文化とどのようにつながり、そして連続しているのか（あるいは断絶しているのか）、そんな問題を考えていただきたいと思います。

原則として特殊な知識を要する内容ではなく、授業計画に掲げた内容に強い関心のある方には、誰でも理解できるよう平易な話に努めます。

【授業計画】

1. 熊本のことば・九州のことば
 2. 現代の熊本方言で若者会話をつくろう
 3. 熊本の民俗と伝承
 4. Globalization and Kumamoto
 5. 社会言語学からみたことば
- 上記の5テーマについて2～4時間ずつ講義していきます。

【選考方法】 受講を希望する理由書（200字程度）により決定

3 English for Global Business IV

講師：岡崎 紀久子

【日 時】 令和元年10月2日～・毎週水曜日
3時限目（12：50～14：20）

【募集人員】 3名 【受講料】 5,000円

【講義内容】 中級

ビジネス社会における英語を用いたコミュニケーションの基礎となる語彙・文法力を培います。TOEIC700点を目標とします。英検2級程度の英語力が必要です。受講希望理由書に今までの英語学習経験及びお持ちの英語資格についてお書き下さい。英語資格をお持ちでない場合、確認のため簡単なテストをお受けいただく場合もあります。

【授業計画】

テキスト（1,800円程度）に沿って授業を行い、小テスト及び自己学習を課します。

【選考方法】 受講を希望する理由書（100字～200字程度）により決定

4 英語 VI (h)

講師：田中 祐治

【日 時】 令和元年10月2日～・毎週水曜日
5時限目（16：10～17：40）

【募集人員】 若干名 【受講料】 5,000円

【講義内容】 中上級

英語の読解力及びその基礎となる語彙力を高めることを目指します。扱う文章はやや高度なものです。したがって、受講希望の方はこの講座の申込メ切り日から1年以内のTOEIC Listening and Reading Testの点数が780点以上であることを公式に示す書類のコピーを申し込み時に添えてください。英語の文章を読んでいく日の次の週には、コンピュータを用いる日が原則として入ってきます。設備の関係でネットワークが不安定な日も起こり得ます。社会人の方向けに特別に合わせて作られた授業ではありませんので、授業で扱う事柄や連絡事項等の中には、直接的な関係がない事柄が含まれる可能性が少なからずあります。もしもお申し込みの場合には上述の諸点を予めご了解いただけたものと理解します。

【選考方法】 受講を希望する理由書（手書き400字程度）及びTOEICの点数を示す書類のコピー

5 Integrated Skills II

講師：原 紘子

【日時】令和元年10月2日～・毎週水曜日
2時限目（10：20～11：50）

【募集人員】若干名 【受講料】5,000円

【講義内容】中級

前期に学習したことをふまえ、統合的なアプローチを通じて、英語4技能（「聴く」「話す」「読む」「書く」）の発展的な訓練を行います。受講にあたっては、英検2級に合格していることが求められます。The class will be conducted 100% in English.

【授業計画】

賛成や反対、意見を言う、選択する、比較する、助言する、物事を関連づけるなどの英語表現を実践します。グループ・ディスカッションやそれにもとづく英作文を通じて、言語機能強化を目指します。

Required textbook: *Impact Issues 2*.

Hong Kong: Pearson Longman, 2009.

ISBN: 978-962-01-9931-8 (¥3,316)

【選考方法】受講を希望する理由書（300字程度）により決定

6 英語教育講義

講師：吉井 誠・Richard Lavin

【日時】令和元年9月30日～・毎週月曜日
5時限目（16：10～17：40）

【募集人員】4名程度 【受講料】5,000円

【講義内容】専門

英語教育とはどういうものか、どのような学問でどのような研究を行うのかを紹介する。英語教育、並びに第二言語習得、CALL（コンピュータ支援言語学習）などの関連分野の概要を知ることを目的とする。

【授業計画】

2名の教員によるオムニバス科目である。第1回～8回は吉井誠が担当し、第二言語習得と言語学習について紹介する。第9～15回はRichard Lavinが担当し、言語学習と関連分野について紹介する。

【選考方法】受講を希望する理由書（300字程度）により決定

7 英文法 I

講師：野々宮 鮎美

【日時】令和元年9月30日～・毎週月曜日
5時限目（16：10～17：40）

【募集人員】5名 【受講料】5,000円

【講義内容】中級

英語ネイティブによって書かれた文法書を読むことで、ネイティブの捉え方に近い英文法の考え方を学ぶ。また、文法項目と関連する言語学の分野（認知言語学、英語史など）を折に触れて紹介する。毎週、教科書付属の練習問題を予習範囲として指定するので、必ず自分で解いてから授業に臨むこと。

使用教材：『マーフィーのケンブリッジ英文法（中級編）』
第3版バイリンガル版

（Cambridge University Press）¥2,680+税

【授業計画】

今学期は教科書のUnit 1から始め、主に動詞の時制（現在形、完了形など）の形式や意味の違いについて扱う。

【選考方法】抽選により決定

8 中国語基礎一 a 週2回

講師：山田 俊

【日時】令和元年9月27日～・毎週木、金曜日
1時限目（8：40～10：10）

【募集人員】5名程度 【受講料】10,000円

【講義内容】中級

週2回の授業により集中的に学修を進めます。前期での学修成果を確認・安定化しつつ、より高度な文法を学修し、長文の読解を進めていくことで、中国語の文に慣れることを目指します。

又、読解と並行して、作文練習、一言会話練習などを導入することで、発信する中国語の学修も進めていきます。

使用テキスト：三瀧正道・陳祖蓓

『時事中国語の教科書 2019年度版』
（朝日出版社、1,900円+税）

※教科書は後期1回目の授業の時に教室で販売します。

後期のこの講座は前期「中国語入門B」の継続クラスです。併せて受講されると学修効果が高まると思われませんが、既に初級文法を学修済みの場合は、後期のこの講座からの受講も可能です。

【選考方法】受講を希望する理由書（100字程度）により決定

9 中国語基礎－b 週2回

講師：岡村 真寿美

【日時】令和元年9月27日～・毎週木、金曜日
1時限目（8：40～10：10）

【募集人員】若干名 【受講料】10,000円

【講義内容】初級

前期「中国語入門B」では、半期で集中的に中国語の初級文法をマスターします。発音の基礎、ピンイン（中国語の発音記号）の読み方から始め、初級中国語の基本的文法事項を学習します。

後期「中国語基礎」は、「入門B－b」の続きとなり、週2回の授業により初級中国語の定着と、中級中国語へのレベルアップを目指します。また中国文化への理解をより深めます。

【授業計画】

前期と同じテキストを使用し、その内容に沿って授業を行います。

テキスト：『どうちがう？ 似たもの中国語』

（朝日出版社 2,400円＋税）

入門Bを受講せず、基礎bのみ受講する場合は、あらかじめ上記テキストを入手、持参すること。

【選考方法】受講を希望する理由書（100字程度）により決定

10 韓国語基礎－a 週2回

講師：崔 文姫

【日時】令和元年9月27日～・毎週木、金曜日
1時限目（8：40～10：10）

【募集人員】3名程度 【受講料】10,000円

【講義内容】初中級

【韓国語入門B－a】の続き講座である。週2回の授業を通して半年で集中的に韓国語を学び、中級へのレベルアップを目指す。これまで身につけた基礎語彙・文法を活用しながら表現の幅を広げる。日常的コミュニケーションができる力をつけるとともに、平易な文章を読んだり、メール等の簡単な文章を書いたりできる能力を養う。

【授業計画】

基本的には教科書に沿って進めるが、韓国社会や文化・時事問題などにも触れる。随時小テストを行い、また会話文暗記などの課題が出されるので、しっかり自学自習する時間を必要とする。

※前期の【韓国語入門B－a】を受講した方を対象とします。未受講の場合は、「ハングル」の読み書きや音の変化、基礎語彙・文法を勉強した方を前提とします。

【選考方法】受講を希望する理由書（400字程度）により決定

11 日本語教授法Ⅱ

講師：馬場 良二

【日時】令和元年9月30日～・毎週月曜日
2時限目（10：20～11：50）

【募集人員】若干名 【受講料】5,000円

【講義内容】専門

この授業を受ければすぐに日本語が教えられるようになるというものではありません。教えるために必要な日本語の分析能力を養成します。

【授業計画】

ローマ字を習得すること、また、エジプト象形文字の表記法、漢字について見ていくことにより、文字の本質に迫ります。つづいて、文法を具体的に観察、分析する訓練を行いながら、日本語を客観的に見ることのできる能力を養成します。今年取り上げる文法項目は、格助詞の「を」「で」「に」、「ラ抜きことば」、ヴォイス、テンスとアスペクト、モダリティーなど。また、熊本方言についても見ていきます。

【選考方法】受講を希望する理由書（200字程度）により決定

12 日本語学概論Ⅱ

講師：半藤 英明

【日時】令和元年10月2日～・毎週水曜日
4時限目（14：30～16：00）

【募集人員】5名 【受講料】5,000円

【講義内容】専門

日本語日本文学科1年生の必修科目です。

日本語に関するこれまでの研究成果を振り返り、その研究方法を学ぶと共に、問題点と今後の可能性を考えます。難解なものにならないよう心掛けますが、専門的内容を含むことをご了承ください。

【授業計画】

- ①世界の中の日本語
- ②音韻
- ③語彙
- ④意味
- ⑤文法
- ⑥表現・文体
- ⑦文字・表記
- ⑧言語生活

以上のそれぞれの基礎知識を順に概説します。

【選考方法】募集人員を超えた場合は抽選により決定

13 日本語史Ⅱ

講師：米谷 隆史

【日 時】令和元年9月30日～・毎週月曜日
2時限目（10：20～11：50）

【募集人員】若干名 【受講料】5,000円

【講義内容】専門

日本語の音韻の歴史について、主に、上代以降の文献資料から考えていきます。漢字音研究資料、キリシタン資料や仮名遣書等、録音機器がない時代の日本語の音を知るために有効な資料中の記述を丁寧に分析することが中心となります。なお、日本語学の基本的知識と「日本語史Ⅰ（前期開講）」の内容を習得しているものとして授業を進めます。

【授業計画】

以下のようなトピックに言及しつつ、音韻史研究上の問題点について述べていきます。

- ・現代日本語の音韻
- ・上代特殊仮名遣の解釈
- ・ヤ行のエと土佐日記
- ・ハ行転呼音とその背景
- ・いろは歌と五十音図の意義
- ・四つ仮名の混同とその背景
- ・アクセント史をめぐる

使用テキスト：木田章義編『国語史を学ぶ人のために』（世界思想社）

【選考方法】抽選により決定

14 言語基礎論

講師：村尾 治彦

【日 時】令和元年10月1日～・毎週火曜日
1時限目（8：40～10：10）

【募集人員】5名 【受講料】5,000円

【講義内容】専門

大学でことばを研究するとはどういうことなのか、何を対象にどのような手法で分析するのか、また、ことばを研究する領域にはどのようなものがあるか等、「言語学」からの知見を基に、ことばの研究に関わる基礎的な知識の獲得と分析方法のトレーニングを行います。

【授業計画】

1. はじめに
2. ことばの特性・機能
3. ことばを研究する分野
4. ことばの科学的研究とは
5. 言語の構造
6. 言語の意味
7. 言語の使用
8. 言語とコミュニケーション

以上の項目等において講義を行います。

【選考方法】受講を希望する理由書（100字程度）により決定

15 古典文学史Ⅱ

講師：鈴木 元

【日 時】令和元年10月3日～・毎週木曜日
3時限目（12：50～14：20）

【募集人員】若干名 【受講料】5,000円

【講義内容】専門

おおよそ鎌倉時代から江戸時代まで、主要な文学ジャンルと文芸運動について概観していきます。

【授業計画】

1. 和歌という文芸
2. 革新とゆり戻しの和歌表現
3. 平家物語と平家語り
4. 太平記と太平記講釈
5. 物語、草子の中近世
6. 近世文学と出版
7. 連歌、俳諧
8. 近世小説としての読本（等）

【選考方法】受講を希望する理由書（100字程度）により決定

16 近代文学史

講師：五島 慶一

【日 時】令和元年10月1日～・毎週火曜日
2時限目（10：20～11：50）

【募集人員】若干名 【受講料】5,000円

【講義内容】専門

本講では、明治期を中心にほぼ時系列に沿って近代文学史上の幾つかの項目を追い、創作活動の背景として存在する個人及び社会的動機に関して改めて確認することで、作家や作品への理解を深める一助とします。特段の予備知識は必要ありませんが、内容は専門的なところまで踏み込むことがあります。

【授業計画】

基本的にある項目・作家などに関して、それぞれ1～2回ずつの講義を行い、最終的にそれらを通じて、文学史の流れの把握を目指します。各回プリントを配布します。

【選考方法】受講を希望する理由書（200字程度）により決定

17 英語圏文学講読Ⅱ

講師：難波 美和子

【日 時】令和元年9月30日～・毎週月曜日
5時限目（16：10～17：40）

【募集人員】2名 【受講料】5,000円

【講義内容】専門

English Literatureは「英語で書かれた文学」であって、イギリス文学やアメリカ文学の範疇を越えたものです。「英語で書かれた文学」は政治的境界や書き手の国籍を越える一方で、地域性も持ち、多様な展開を見せています。これをよりよく読むためにはテキストが置かれた歴史的背景を踏まえ、そのディスコースが包含する可能性をさぐる必要があります。その一例として、南アジアの英語文学を概観し、英語文学の多様性と豊饒性を確認するとともに、その可能性と問題点を考察します。

後期には、前期に引き続き英語文学を巡る問題を学び、つづいて南アジアの英語文学作品を読みながら、英語の文学の多様性を味わいます。

英米文学史および世界史の基本的知識について身につけていることが望まれますが、受講しながら学んでもかまいません。

【授業計画】

1. 南アジアの英語文学
2. イギリス文学と英語文学
- 3～13. 南アジアの英語文学作品を読む
14. レポート輪読会 15. まとめ

【選考方法】受講を希望する理由書（200字程度）により決定

18 比較文学講義Ⅰ

講師：難波 美和子

【日 時】令和元年10月3日～・毎週木曜日
5時限目（16：10～17：40）

【募集人員】2名 【受講料】5,000円

【講義内容】専門

テキストの読みと解釈を通して、文学批評の概念と現代文学批評の基礎を学びます。積極的・生産的読者を目指しましょう。テキストについては授業中に指示します。

【授業計画】

1. 批評の概念と歴史
2. 批評理論について
- 3～5. 文学作品を読む
- 6～12. 批評理論の概要
- 13～14. テキストを読み直す
15. レポート講読会

【選考方法】受講を希望する理由書（200字程度）により決定

19 米文学講読Ⅰ

講師：吉田 希依

【日 時】令和元年9月27日～・毎週金曜日
4時限目（14：30～16：00）

【募集人員】若干名 【受講料】5,000円

【講義内容】専門

米文学（主に小説）の主要なテキストを丁寧に精読することで、飛ばし読みではなくしっかりと文学テキストに向き合う姿勢と、論ずる力を養うことを目的とする。授業を通じて、アメリカ文学の作品を自力で読む姿勢と力を身に付け、また文学作品に対するアプローチを学ぶ。

【授業計画】

初回にイントロダクションとして作品の背景や全体的説明を行う。二回目以降は指定テキストの決められた範囲を精読する。

【選考方法】受講を希望する理由書（200字程度）により決定

20 現代世界と歴史

講師：大島 明秀

【日 時】令和元年10月2日～・毎週水曜日
3時限目（12：50～14：20）

【募集人員】若干名 【受講料】5,000円

【講義内容】一般教養

帝国日本が断行した数々の政策と歩みを確認しながら、敗戦国として復興の道を模索した戦後日本の営為と軌跡を見ていきます。また、戦後ドイツとの比較を通して、戦争責任や外国籍者受け入れなど現代日本が直面している諸問題について考えることも課題とします。重視するのは年表の羅列的な記憶ではなく、出来事が起こった原因、背景および経緯の理解と考察です。柔軟で幅広い視野と貪欲な知的好奇心、諸外国語を恐れない勇気が必要となります。それに加えて、過去の事例を現在の社会問題に引き付けて考える姿勢を希望します。

【授業計画】

近代日本が行った琉球、蝦夷地の編入と、台湾、朝鮮、満州への海外膨張政策を確認しながら、国内で行われた戦意高揚のためのプロパガンダ、学問、教育、政治を取り上げます。また、帝国日本の植民地政策によって生じた〈在日コリアン〉や、民族或いはジェンダー差別を考え、戦後のドイツの軌跡を比較参考にしながら戦後日本の歩みを確認していきます。

【選考方法】受講を希望する理由書（400字程度）により決定

21 中国 文化 論 I

講師：山田 俊

【日 時】令和元年10月3日～・毎週木曜日
5時限目（16：10～17：40）

【募集人員】5名程度 【受講料】5,000円

【講義内容】専門

本講義は、中国学を学ぶ際に最低限必要と思われる事柄について講義するものです。中国あるいは日本と中国の関りに関心を持ち、それらを学び、調べる際のノウハウについて講義します。

本講義では、中国独特の図書分類、思想史・文学史・言語学史等の大きな流れ、実際に文献を調査・読解する際に用いられる辞書、工具書、概説書等を紹介をし、併せて、近年飛躍的に発展しているデジタル文献、あるいはネット上での検索などについても紹介していきます。

【授業計画】

1. 目録学概論
2. 主要叢書
3. 「偽書」
4. 辞書の歴史
5. 訓詁の実例
6. 儒教史
7. 仏教史
8. 道教史
9. 文学史①：詩
10. 文学史②：詩の実例
11. 文学史③：小説
12. 文学史④：小説の実例
13. 言語学史
14. 「類書」
15. IT及びデジタル文献

【選考方法】受講を希望する理由書（100字程度）により決定

22 人間 と 芸術

講師：永田 郁

【日 時】令和元年9月30日～・毎週月曜日
3時限目（12：50～14：20）

【募集人員】5名 【受講料】5,000円

【講義内容】一般教養

本講義は「人間と芸術」というテーマのもと、人間が社会の中でいかなる芸術もしくは視覚イメージを創造したか、人間にとって芸術・視覚イメージがどのように用いられ、理解されてきたかについて、日本を含むアジア世界および西洋世界の具体例を取り上げ、探って行きます。

【授業計画】

1. 序論
- 2-3. 芸術鑑賞の哲学
- 4-5. 芸術とは？
6. 現代美術を見る（「見る」ということ）
7. 美術／アートと音楽（映像鑑賞）
- 8-9. 横たわる裸婦像の系譜
- 10-11. 悪魔をめぐる東西のイメージ
12. ヒンドゥー教神話の造形
13. 日本の銅像について

【選考方法】抽選により決定

23 西洋 文化 史 II

講師：内田 良太

【日 時】令和元年9月30日～・毎週月曜日
2時限目（10：20～11：50）

【募集人員】若干名 【受講料】5,000円

【講義内容】専門

18世紀フランスでは王政、立憲君主政、共和政、そして帝政と政体が変わりました。このような時期においては権力機構を通じての支配だけでは統治は困難であり、支配集団の文化に対する従属集団からの自発的な合意が必要とされました。支配集団は合意獲得のために多様な「装置」を利用しました。

本講義ではこの「装置」に注目し、近世・近代国家の支配の特質の解明を目的とします。

【授業計画】

上述の目的を達成するために以下のトピックに言及しつつ、検討をおこないます。

1. 作られる王
2. 革命祭典
3. 国王裁判
4. ロベスピエールとその思想
5. 文化の刷新
6. ナポレオンとそのヘゲモニー

【選考方法】受講を希望する理由書（800字程度）により決定

24 海 の 生物 資源

講師：一宮 睦雄

【日 時】令和元年9月30日～・毎週月曜日
3時限目（12：50～14：20）

【募集人員】若干名 【受講料】5,000円

【講義内容】一般教養

海は広くて大きく、多くの海洋生物が住んでいる。私達はこれらの生物を食糧資源として利用しているが、その生態について十分知っているわけではない。本講義では、海的环境と様々な海洋生物の生態について展開する。海の生物に関する入門の講義で、誰でも履修できる。

【授業計画】

1. 海的环境と生物の生き方
2. 海洋生物の多様な生態（フグ、アユ、サケ・マス類、ノリ、マグロ類、カツオ、ウナギ、マイワシ等浮魚類、ブリ・ハマチなど）
3. 海洋環境保全の重要性

【選考方法】受講を希望する理由書（100字程度）により決定

25 地域景観計画学

講師：柴田 祐

【日 時】令和元年10月3日～・毎週木曜日
2時限目（10：20～11：50）

【募集人員】若干名 【受講料】5,000円

【講義内容】専門

景観の概念、景観形成の視点、景観形成における自然の重要性などについて、農山村地域における具体的な事例を通して学び、地域景観は、景観を構成する種々の要素と、そこでの人々の生活との関わりの中から成立していることを理解する。

【授業計画】

1. 景観の理念と構成要素
2. 地域における景観構造の把握と評価方法
3. 農山村地域における景観計画の考え方
4. 農山村地域における景観整備の実際
5. 景観まちづくりの実践
6. 景観の予測と評価
7. 文化的景観と地域づくり

【選考方法】受講を希望する理由書(200字程度)により決定

26 建築環境工学Ⅱ

講師：辻原 万規彦

【日 時】令和元年9月27日～・毎週金曜日
1時限目（8：40～10：10）

【募集人員】若干名 【受講料】5,000円

【講義内容】専門

建築環境工学のうち、空気、光、音環境に関する基礎事項を平易に解説する予定です。知識だけにとどまらず、ものの見方、考え方も学べることを目指したいと考えています。理解を深められるように、できるだけ毎回、演習問題を出題する予定です。関数電卓が必要です。なお、高校卒業程度の数学、物理の知識があることを前提とします。

【授業計画】

教科書は、『図説 やさしい建築環境』（今村仁美・田中美都著、学芸出版社）です。講義の内容は、照度と輝度、照明計画、色彩、換気のための、汚染物質の濃度、自然換気、機械換気、換気計画、音の性質、室内の音響、騒音と振動などです。

【選考方法】受講を希望する理由書(200字程度)により決定

27 環境と生物圏

講師：堤 裕昭

【日 時】令和元年10月1日～・毎週火曜日
3時限目（12：50～14：20）

【募集人員】4名 【受講料】5,000円

【講義内容】一般教養

地球46億年の歴史の中で、地球の環境、そこに棲息する生物や生態系がどのような必然性と偶然性の中で形作られてきたかを解説します。我々の棲む地球がどのようなのできあがり、そこで生物が誕生して、どのような進化を遂げてきたのか、地球史と生物進化史の概要に関する知識を習得することを目標とします。

【授業計画】

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 水の惑星、地球の誕生のしくみ
- 第3回 月の起源とそれが地球に与える影響
- 第4回 原始生命の誕生と暮らし
- 第5回 光合成の起源
- 第6回 多細胞生物の誕生とカンブリア変革
- 第7回 魚類の誕生と陸上への生物の進化
- 第8回 爬虫類の進化
- 第9回 ほ乳類の誕生と天変地異
- 第10回 人類の誕生と進化
- 第11回 エネルギーと人間の寿命
- 第12回 人口とエネルギー問題
- 第13回 原子力発電の全貌と実態
- 第14回 将来のエネルギーをどのようにつくる
- 第15回 人間社会の未来と環境

【選考方法】受講を希望する理由書(200字程度)により決定

28 海洋生態学

講師：堤 裕昭

【日 時】令和元年9月27日～・毎週金曜日
3時限目（12：50～14：20）

【募集人員】4名 【受講料】5,000円

【講義内容】専門

沿岸域の海洋環境の物理化学的特性、海洋生物の生活史、生物群集としての特性、生態系の成り立ちとはたらきについて、海洋生態学および沿岸環境学の見地から講義します。

【授業計画】

1. イントロダクション
2. 沿岸海洋の物理化学的な特徴
3. 沿岸閉鎖性海域の物理化学的特性
4. 岩礁潮間帯における生物の帯状分布
5. 海洋生物の繁殖様式と生活史の特徴
6. 個体群の増殖モデル
7. 生活史戦略理論と海洋生物の繁殖様式の関係
8. 海藻の生活史
9. 種間競争とニッチェ
10. 岩礁潮間帯に見られる群集構造とキーストーン種
11. 底生生物の摂食様式と基質の関係
12. 植物プランクトンの特性と一次生産
13. 海洋生態系における生物生産活動の特性
14. 沿岸閉鎖性海域の富栄養化と生態系の衰退の関係
15. 講義の要点のまとめ

【選考方法】受講を希望する理由書(200字程度)により決定

29 建築構法

講師：北原 昭男

【日時】令和元年10月3日～・毎週木曜日
2時限目（10：20～11：50）

【募集人員】3名 【受講料】5,000円

【講義内容】専門

本講義では、建築構造学の入門として、各種構造物の構法的な特徴・特性を習得することを目標とします。具体的には、鉄筋コンクリート構造・鉄骨構造・木質構造などの今日の代表的な建築構法に関して、これらの構法の成り立ちや特徴、その構成方法、用いられる部材や接合方法などについて講述します。講義を進めるに当たっては、適宜、トラスやラーメン構造などの構造フォームと関連づけて解説します。

【授業計画】

主な講義内容は以下の通りです。

- 建築構造物の構法的分類
- 建築構造のフォーム
- 鉄筋コンクリート造の原理と特徴、構造形式、施工方法、各部位の詳細など
- 鉄骨構造の特徴、構造形式、施工方法、接合方法、各部位の詳細など
- 木構造の構法の特徴、各部位の詳細など

【選考方法】受講を希望する理由書（200字程度）により決定

30 食品安全性学

講師：有菌 幸司

【日時】令和元年10月2日～・毎週水曜日
2時限目（10：20～11：50）

【募集人員】若干名 【受講料】5,000円

【講義内容】専門

近年、食を通じて健康を保持しようとする風潮が強くなり、特に食品の有害性や安全性に対する知識の必要性が求められています。食関連化合物の毒性、有害性に対する知識の不完全さ、情報の偏りと判断の偏りが、食品の安全性に対する一般の不安を増加させています。そこで、多種類の化学物質と多様な毒性を食のリスク管理として用いるべく食品安全性評価手法について解説します。

【授業計画】

- 1～2. 毒性学総論
- 3～5. 毒性試験
- 6～8. 食品安全におけるリスクアナリシス
- 9～10. 食のリスクコミュニケーション
- 11～14. 食のリスクマネジメント
15. まとめ

【選考方法】抽選により決定

31 アジア地域論

講師：高埜 健

【日時】令和元年10月2日～・毎週水曜日
2時限目（10：20～11：50）

【募集人員】若干名 【受講料】5,000円

【講義内容】専門

本講義は、情勢分析ふうくに国別にアジアの紹介をするのではなく、「アジア」と呼ばれる地域で起きているさまざまな出来事、現象、ものの考え方を学ぶことを通じて、アジアとは何か、日本は果たしてアジアか、私たちはアジア人か？と問い直すことをその目標とします。

講義レベルは大学専門課程の中位レベルです。

【授業計画】

「アジアはひとつ」か？「脱亜入欧」か？／アジアの国民国家とナショナリズム／独立国家はいかに建設されたか？／多民族（人種）・多文化国家／ボーダーレスな人びと、華僑・華人／現代インド論入門～「ボリウッド」を体感しよう／「東アジア共同体」はできるか？／南シナ海問題／他（順不同）。

【選考方法】受講を希望する理由書（400字程度）により決定

32 公共政策論Ⅱ

講師：井寺 美穂

【日時】令和元年10月1日～・毎週火曜日
3時限目（12：50～14：20）

【募集人員】5名 【受講料】5,000円

【講義内容】専門

公共政策とは、様々なアクターが関与しながら策定される「公共的な諸問題を解決するための活動案」のことです。公共政策は、一般に「問題認識」→「課題設定」→「政策立案」→「政策決定」→「政策実施」→「政策評価」のステップを経ながらサイクルとして終結するといわれています。本科目では、広義の公共政策とそれらが辿るステップに焦点をあてます。

【授業計画】

まずは、公共政策がどのようなアクターのもと、どのように形成され、そして決定、実施、評価されているか、そのプロセスを科学的に分析・検討します（第2回～第11回）。その上で、身近な社会問題を題材に、政策の立案に取り組みます（第12回～第15回）。

【選考方法】抽選により決定

33 地 方 自 治 論

講 師：澤田 道夫

【日 時】令和元年9月30日～毎週月曜日
5時限目（16：10～17：40）

【募集人員】20名 【受講料】5,000円

【講義内容】専門

この授業では、私たちにとってもっとも身近な政治・行政様式である「地方自治」の理論と制度について学びます。地方自治に関する知識とその実務のイメージを掴み、望ましい地方自治を実現するための住民と行政との関係、そして将来の地方自治のあり方について考えることができるようにしていきます。

【授業計画】

はじめに、授業で扱う「地方自治」の概念について学びます。

続いて、地方自治と民主主義の関係、地方自治体が行う仕事の実際、自治体の予算制度、行財政改革、地方分権改革、市町村合併、世界の地方自治制度等について、時事問題などを追いながら講義していきます。

【選考方法】抽選により決定

34 地 域 づ く り と 協 働

講 師：澤田 道夫

【日 時】令和元年10月1日～毎週火曜日
5時限目（16：10～17：40）

【募集人員】20名 【受講料】5,000円

【講義内容】専門

参加・協働は、国や自治体が行う様々な行政活動に地域住民が参加し、行政と力を合わせてより良い社会を作り上げていくという概念です。

この授業は、地方自治に関する基本的な知識を持つ方を対象に、参加・協働の発展過程や様々な理論を学び、参加・協働の持つ意義とその条件について理解を深めていくことを目的とします。

【授業計画】

はじめに、授業で扱う「協働」の概念を学びます。

続いて、参加から協働への発展過程を把握したうえで、協働を理解する鍵概念となるCo-Production理論やソーシャルキャピタル、「新しい公共」の概念等について講義していきます。

【選考方法】抽選により決定

35 生 命 倫 理 と 法

講 師：江崎 一朗

【日 時】令和元年10月2日～毎週水曜日
2時限目（10：20～11：50）

【募集人員】若干名 【受講料】5,000円

【講義内容】専門

生命倫理における多様な問題について考察する。『医療倫理学』を解説することを通じて、私たちが近代的市民として身に着けるべき生命倫理と法に対する認識を深める。

【授業計画】

人間の尊厳、バイオ・エシックス、生命倫理学の成立、医療における倫理問題、生命の誕生を巡る法と倫理、生殖補助医療、脳死・尊厳死・安楽死、中絶胎児の医療への利用、医師の倫理綱領、医事法における倫理と法、医療制度に関する法、診療契約と民事責任 ※受講生の理解度や要望、講義の進捗状況等により適宜、変更あり。

【選考方法】受講を希望する理由書（200字程度）により決定

36 行 政 法 II

講 師：上拂 耕生

【日 時】令和元年10月1日～毎週火曜日
1時限目（8：40～10：10）

【募集人員】若干名 【受講料】5,000円

【講義内容】専門

この授業では、行政訴訟、行政不服申立て、国家賠償、損失補償など行政救済法の分野について学ぶ。学問上の基本的な問題・論点について、判例など具体的事例を通じて学習します。

【授業計画】

行政訴訟→行政不服申立て→国家賠償→損失補償の順序で講義します。詳しくは第1回目の授業時に説明します。

【選考方法】受講を希望する理由書（400字程度）により決定

37 憲 法 II

講師：佐藤 雄一郎

【日 時】令和元年9月27日～・毎週金曜日
4時限目（14：30～16：00）

【募集人員】10名 【受講料】5,000円

【講義内容】専門

日本国憲法が保障する基本的人権に関する判例、特に最高裁判例に関する分析を行いながら、わが国における人権保障の問題点を炙り出し、対策も含めて、受講生にたくさんの質問をして、受講生とともに考えていきたいと思ひます。

【授業計画】

外国人の人権、身体的自由、思想良心の自由、信教の自由と政教分離、表現の自由、職業選択の自由、財産権、社会権、法の下での平等等に関する最高裁判例を分析していきます。

【選考方法】受講を希望する理由書（200字程度）により決定

38 消費者行動論

講師：丸山 泰

【日 時】令和元年10月2日～・毎週水曜日
1時限目（8：40～10：10）

【募集人員】5名 【受講料】5,000円

【講義内容】専門

消費者をよく理解することなしに、マーケティングは有効に機能しないと言っても過言ではない。消費者の行動を、問題認識－情報探索－評価－選択－購買－購買後評価といった局面別に理解を深め、人々がどのような刺激によってどのような反応をするのか、そのメンタルモデルについて学ぶ。

【授業計画】

- ・イントロダクション（消費者行動研究の概要）
- ・消費者行動研究の歴史
- ・購買意思決定プロセス(1)
- ・購買意思決定プロセス(2)
- ・問題意識と動機
- ・知覚
- ・学習
- ・関与
- ・態度
- ・社会的要因
- ・カスタマージャーニー
- ・ブランドと消費者行動
- ・消費者行動とマーケティング（外部講師）
- ・地域活性化と消費者行動
- ・まとめ

※講義順序は多少前後することがあります。

【選考方法】抽選により決定

39 商 法 I

講師：吉村 信明

【日 時】令和元年9月27日～・毎週金曜日
3時限目（12：50～14：20）

【募集人員】10名 【受講料】5,000円

【講義内容】専門

現代社会において企業は極めて大きな役割を果たしていますが、近年不祥事事件が多発し株式市場に大きな影響を与えたり、経営破綻に至る事例も増えています。そこで、そのような事態の発生を防止する為に会社法という法律が様々な規定を置いています。

本講義では、会社法の基礎知識の習得・理解を目的としています。

講義レベルとしては、法学部での講義内容を少し簡略化した程度です。

【授業計画】

講義時間の関係で会社法全般に触れることができませんので、株式会社の経営管理機関（株主総会、取締役、執行役、監査役、会計監査人、会計参与）の仕組み、法律上の権限・義務、法的責任の内容などを説明する予定です。

【選考方法】抽選により決定

40 会 計 監 査

講師：山西 佑季

【日 時】令和元年9月27日～・毎週金曜日
3時限目（12：50～14：20）

【募集人員】若干名 【受講料】5,000円

【講義内容】専門

本講義では、企業が作成・公表する財務諸表の信頼性を担保するために必要なシステムである会計監査について、その制度的仕組みや実施方法などを過去に実際に発生した企業による会計不正のケースを通じて学習します。

【授業計画】

1. オリエンテーション
2. 会計監査の必要性
3. 会計専門職による監査
4. 監査期待ギャップ問題
5. 金融商品取引法監査制度
6. 会社法監査制度（1）
7. 会社法監査制度（2）
8. 監査基準と監査手続
9. 監査報告書
10. 他の監査人等の利用と内部監査
11. 内部統制監査
12. 継続企業の前提の監査
13. 四半期レビューと中間監査
14. 社会の要請と監査の変化
15. まとめ

【選考方法】受講を希望する理由書（400字程度）により決定

41 ビジネスマネジメント

講師：藤井 資子

【日 時】令和元年10月1日～・毎週火曜日
4時限目（14：30～16：00）

【募集人員】10名程度 【受講料】5,000円

【講義内容】専門

本講義では、経営戦略という側面から、ビジネスの現場をマネジメントしていくために必要な知識の修得と、その応用力を醸成することを目的とします。具体的には、経営戦略の理論や分析フレームワークを学習し、それらを実際の経営課題に関する意思決定に応用するプロセスを体験します。

本講義では、実際の経営課題に対して問題発見、問題解決の提案を行うことができる人材の育成を目指します。（教室で討論を行うビジネス・スクールスタイルの授業を学部用アレンジしたものになります。）

【授業計画】

1. オリエンテーション：授業の進め方、評価方法の説明、討論形式の授業の体験をします。
2. 経営戦略とは何か：経営戦略について概観します。
3. 事業ドメイン：事業領域をどう決めるかについて学びます。
- 4～6. 事業戦略の策定（1）～（3）：事業戦略策定に関する理論とプロセスを学びます。
- 7～9. 経営戦略とマーケティング（1）～（3）：マーケティングの基礎的な理論を学習します。
- 10～11. 経営とゲーム理論（1）～（2）：ゲーム理論の基礎を学習します。
ビジネスを理解するうえで必要なゲーム理論について学びます。
- 12～13. 競争戦略（1）～（2）：競争戦略の基本的な知識を学びます。
- 14～15. 技術進歩と経営戦略（1）～（2）：第1回から第13回の講義で得た知識を応用するため、クラス討議を行います。

【選考方法】受講を希望する理由書（400字程度）により決定

42 原価計算論

講師：望月 信幸

【日 時】令和元年10月3日～・毎週木曜日
3時限目（12：50～14：20）

【募集人員】若干名 【受講料】5,000円

【講義内容】専門

本講義では原価計算の意義および目的を理解し、原価計算の理論および計算手法について講義します。具体的には、理論的アプローチの修得および計算手法の習得を目指すとともに、簿記検定2級工業簿記程度の知識を獲得することを目的としています。

【授業計画】

- ・原価計算の基礎
- ・原価の費目別計算
- ・原価の部門別計算
- ・原価の製品別計算

【選考方法】受講を希望する理由書（200字程度）により決定

43 ミクロ経済学Ⅰ

講師：井田 貴志

【日 時】令和元年10月2日～・毎週水曜日
5時限目（16：10～17：40）

【募集人員】若干名 【受講料】5,000円

【講義内容】専門

ミクロ経済学の基礎的内容である「市場メカニズム」、「消費者の予算制約下での効用最大化行動」、「企業の利潤最大化（費用最小化）行動」について、図や数式を用いながら理論的に習得していく。数学的知識については、微分程度は必要である。

【授業計画】

- 1 回目に経済学の全体像をガイダンス的に説明し、2 回目から市場メカニズム、消費者行動、生産者行動の順に進めていく。

【選考方法】受講を希望する理由書（400字程度）により決定

44 情報社会とコンピュータ

講師：津曲 隆

【日 時】令和元年10月1日～・毎週火曜日
2時限目（10：20～11：50）

【募集人員】若干名 【受講料】5,000円

【講義内容】専門

近年、デジタル情報の利用が全てにおいて前提となっており、われわれはそのデジタル情報の持つ意味や意義を改めてしっかりと理解しておく必要に迫られている。本講義では、情報社会を複眼的に捉えるため、「情報社会を支える科学と技術」「情報の性質」「情報社会のリスクと安全」等のテーマに分けて解説を行い、それらを総括する形で現代のデジタル情報社会について考えていく。

【授業計画】

講義内容に沿って座学形式で行う。教材は全てWeb上においており、Webから事前に入手していることを前提に授業を進める。

【選考方法】受講を希望する理由書（200字程度）により決定

45 アルゴリズム論

講師：金井 貴

【日 時】令和元年10月1日～・毎週火曜日
3時限目（12：50～14：20）

【募集人員】若干名 【受講料】5,000円

【講義内容】専門

アルゴリズムとは、問題を解決するための手順のことである。本講義では、情報を効率よく処理するために必要となる基本的なアルゴリズムについて学ぶ。

【授業計画】

- 1-4. データ構造とアルゴリズムの基礎
- 5-7. データの探索、ソート
- 8-10. アルゴリズムの設計手法
- 11-13. グラフアルゴリズム、文字列照合
- 14-15. アルゴリズムの限界

【選考方法】抽選により決定

46 情報システムデザイン論

講師：小菌 和剛

【日 時】令和元年9月27日～・毎週金曜日
2時限目（10：20～11：50）

【募集人員】3名 【受講料】5,000円

【講義内容】専門

本講義では、業務にマッチした質の高い情報システムを構築するため、まず身近な事象を対象とした「情報システムの立案」や「情報システム開発の手順」について考察します。その後、身近な事象をシステム化する課題を通して、各種理論や手法に立脚したシステム開発の実践を経験し、情報システム開発を体系的に習得します。

【授業計画】

講義では、情報システム開発のライフサイクルに沿った理論や手法の説明を行います。

全15回の前半では、ライフサイクルの企画や調達についてRFPの事例を中心に講義を進めます。

中盤から後半にかけては、ウォーターフォールモデルを中心に、情報システムの開発や運用・保守についての内容を学習します。毎回の講義では、説明した内容に沿った演習を行います。

【選考方法】受講を希望する理由書（800字程度）により決定